

皮膚科学

ナンバリング M4-S1-D21

責任者・コーディネーター	皮膚科学講座 天野 博雄 教授		
担当講座・学科(分野)	皮膚科学講座		
担当教員	天野 博雄 教授、渡部 大輔 准教授、三浦 慎平 講師、角田 加奈子 講師、渡辺 彩乃 講師、吉田 亜希 非常勤講師、石川 治 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 14コマ 28.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針(講義概要等)

皮膚、皮膚粘膜移行部、粘膜は内臓と外的環境の境界となる部位である。内臓の異常、あるいは外的環境や刺激が発疹となって表れる。皮膚科学では発疹の性状・分布等を分析し、そこで生じている病態を理解することにより、発疹の誘因となった外的環境や内臓障害を推察する。すなわち、発疹を診て病理学的変化や病態を考え、適切な治療と予防を行う学問である。

・教育成果(アウトカム)

皮膚科学の講義を通じて、発疹の診方とその病態、検査法、診断手順、治療法と予防法を修得することで、将来医師としてあるいは医学者として必要な皮膚疾患に関する知識を得て適切な医療について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	皮膚の基本的構造と生理学的特性および皮膚免疫機能を述べ、その異常による疾患について説明できる。
2	皮膚科診断学、発疹学、皮膚科検査法の種類とその手技を説明することができる。また、皮膚科治療法(外用療法、内服療法、光線療法)を説明できる。
3	湿疹皮膚炎群、蕁麻疹・痒疹とアナフィラキシーの病態、その診断法と治療法について説明できる。
4	紅斑症、紅皮症、薬疹、GVHDと病態、その診断と治療法について説明できる。
5	紫斑と血管炎および皮膚脈管異常の皮膚症状の特徴について説明し、その診断法と治療法について説明できる。
6	膠原病とその類縁疾患の皮膚症状および免疫機構との関わりについて説明し、その診断法と治療法について説明できる。
7	紫外線を含む皮膚の物理・化学障害および光線性皮膚障害について説明し、その治療法と予防法について説明できる。皮膚奇形、母斑症の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
8	表皮の接着構造と水疱症の関わり、膿疱症の種類と病態について説明し、その診断法と治療法について説明できる。
9	代謝異常、メラニン生成機序からみた色素異常症について説明し、その治療法と予防法について説明できる。
10	表皮の角化機序と意義を説明し、先天性および後天性角化異常症の種類と病態、その診断法と治療法について説明できる。
11	悪性皮膚腫瘍および皮膚リンパ腫、良性皮膚腫瘍の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
12	皮膚抗酸菌症、真菌性感染症、性病と節足動物による皮膚障害の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
13	皮膚付属器疾患、脂腺・毛髪疾患、肉芽腫性疾患の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。
14	皮膚の感染防御機構と、ウイルス性および細菌性皮膚感染症による皮膚病変の病態を説明し、その診断と治療法について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはWebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/7(火)	1	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	発疹の診方、皮膚疾患の検査方法、治療方法	2	【事前学修】 原発疹と続発疹の用語を調べておく。真菌検査とパッチテストについて学んでおく。所要時間 40分以上 【事後学修】 原発疹と続発疹を列挙できるようにする。真菌検査とパッチテストについて説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/7(火)	2	皮膚科学講座	三浦 慎平 講師	巧みな皮膚の構造と機能	1	【事前学修】 皮膚の構造と機能について、教科書を読んで理解しておく。特に皮膚の基本的な構造についてシェーマが書けるようにしておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 皮膚の構成と機能について確認しておく。所要時間 40分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/14(火)	1	皮膚科学講座	渡部 大輔 准教授	血管及びリンパ管の疾患	1,5	【事前学修】 血管とリンパ管の疾患を教科書で学習し、血管炎の分類についても確認しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 血管炎の分類と原因や症状、治療について説明できるようにする。 動脈性血行障害、静脈疾患について説明できるようにする。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/14(火)	2	皮膚科学講座	角田 加奈子 講師	皮膚付属器と真皮の疾患	1,13	【事前学修】 付属器、真皮の疾患について教科書を用いて調べておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 付属器、真皮の疾患について列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/21(火)	1	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	水疱症は表皮細胞接着分子の自己免疫疾患である	1,2,8	【事前学修】 水疱症の種類について教科書を読んで理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 具体的な水疱症の種類と診断方法、治療法を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	4/21(火)	2	皮膚科学講座	角田 加奈子 講師	物理的皮膚障害、母斑症の病態と治療	7	【事前学修】 紫外線の種類、熱傷の重症度分類、母斑症を理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 紫外線で生じる疾患、熱傷の重症度分類、予後因子、代表的な母斑症を説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/28(火)	1	皮膚科学講座	三浦 慎平 講師	皮膚悪性・良性腫瘍の病態と診断	11	【事前学修】 皮膚悪性腫瘍（リンパ腫を含む）、良性腫瘍の種類と特徴をアトラスを見て勉強しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 皮膚悪性腫瘍（リンパ腫）、良性腫瘍の種類とその特徴、治療について説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	4/28(火)	2	皮膚科学講座	天野 博雄 教授	湿疹皮膚炎は表皮のバリア異常と免疫反応による	2,3	【事前学修】 湿疹の定義、アトピー性皮膚炎の診断基準、蕁麻疹について教科書やガイドラインを用いて理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹の診断、治療について説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/12(火)	1	皮膚科学講座	渡部 大輔 准教授	炎症性角化症、遺伝性角化症	1,2,10	【事前学修】 炎症性角化症の種類について教科書を読んで理解しておく。表皮の角化機序も確認しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 炎症性角化症の種類とその治療について列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/12(火)	2	皮膚科学講座	渡辺 彩乃 講師	薬疹、紅斑を生じる疾患	2,4	【事前学修】 薬疹、紅斑症について教科書を読んで理解しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 薬疹（特に重症薬疹）、紅斑症についてその種類と特徴を説明できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

講義	5/19(火)	1	皮膚科学講座	吉田 亜希 非常勤講師	メラニンや微量元素・蛋白の異常は色素異常症や皮膚の代謝異常症を生じる	9	【事前学修】 色素異常症、代謝異常症についてその種類と治療を勉強しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 色素異常症、代謝異常症についてその種類と治療を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/19(火)	2	皮膚科学講座	渡部 大輔 准教授	感染症の発疹を見逃さない	2,12	【事前学修】 皮膚感染症についてその種類と治療を勉強しておく。所要時間 40分以上 【事後学修】 具体的な皮膚感染症の種類と診断方法、治療法を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/26(火)	1	皮膚科学講座	石川 治 非常勤講師	膠原病の皮膚症状	2.6	【事前学修】 膠原病の皮疹について教科書を読んでおく。所要時間 40分以上 【事後学修】 膠原病の皮疹について各種膠原病と特徴的な皮疹について列挙できるようにする。所要時間 90分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/26(火)	2	皮膚科学講座	渡辺 彩乃 講師	皮膚真菌症、皮膚抗酸菌症、性感染症、虫による皮膚疾患	14	【事前学修】 皮膚真菌症、性感染症について教科書を用いてその種類を学んでおく。所要時間 40分以上 【事後学修】 具体的な真菌症・性感染症・虫刺症の種類と診断方法、治療法を列挙できるようにする。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
推薦図書	皮膚科カラーアトラス第3版 臨床像と組織像	石川 治 編著	中外医学社	2017
推薦図書	新しい皮膚科学 第3版	清水 宏 著	中山書店	2018
推薦図書	皮膚病アトラス 5版	西山茂夫 著	文光堂	2004

・成績評価方法

【総括評価】

以下の合算（100点満点）により判定する。

1. 定期試験（90%）：全14回の講義内容を範囲とする筆記試験を行う。
2. 講義内小テスト（10%）：各回講義終了時に実施する小テストの結果を評価に算入する。

※小テストの採点基準

- ・各回の回答のうち、「第1回目」の回答得点を総括評価の対象とする。
- ・第2回目以降の回答は学習用として何度でも可能であるが、総括評価の成績には反映しない。
- ・期間内に受験しなかった場合は0点として扱う。

【形成的評価】

講義終了時にWeb Classを用いた小テストを実施し、その結果を授業およびWeb Classにてフィードバックすることで学習の促進を図る。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～14	1～8			10	90			100
合計				10	90			100

・特記事項・その他

1. 巧みな皮膚の構造と機能 1回
2. 発疹の診方が正しい診断と治療を導く 1回
3. 湿疹皮膚炎は表皮のバリア異常と免疫反応による 1回
4. 内臓疾患や薬剤の影響で紅斑症が生じる 1回
5. 皮膚脈管系の巧妙な働きと障害 1回
6. 皮膚病変から膠原病を診断する 1回
7. 物理的皮膚障害、母斑症の病態と治療戦略 1回
8. 水疱症は表皮細胞接着分子の自己免疫疾患である 1回
9. メラニンや微量元素・蛋白の異常は色素異常症や皮膚の代謝異常症を生じる 1回
10. 遺伝性角化異常はケラチン蛋白の異常発現で、炎症性角化症はサイトカイン異常分泌で生じる 1回
11. 皮膚付属器と真皮の巧妙な構造と役割 1回
12. 見逃してはならない皮膚悪性腫瘍、皮膚良性腫瘍の診断と治療 1回
13. 感染症の発疹を見逃すな 1回
14. 稀だが重要な皮膚真菌症・抗酸菌症・性病・虫による皮膚病 1回

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書、参考書、講義にはPCによるスライドを用いる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン一式 iMac MD093J/A	1	講義資料作成
講義	パソコン一式 M9249J/A	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン一式 LIFEBOOK AH43/D3	1	講義資料作成
講義	デジタル一眼レフカメラ EOS-10D	1	講義用写真
講義	一眼レフ対応ダーマフォトモジュールセット	1	講義用写真
講義	ノートパソコン MAC MKGP3JA	1	講義資料作成
講義	ノートパソコン FMVU90H1B	1	講義資料作成
講義	37.5型カラー液晶モニター FlexScan	1	講義資料作成